

宿縁

八月号

浄土真宗
本願寺派

中原寺

TEL 〇四七―三七二―〇二九二
FAX 〇四七―三七二―〇二六一

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

聴く力は 無限のお育てによる



近頃、私立で唯一の難聴児の学校である日本聾話学校で難聴児の教育に取り組んでこられた教育者安積力也先生の対談集を読む機会に恵まれました。そして「待つことによつてしか育つてゆかないもの」という言葉に出会って、悲喜の想いが心に走りまわりました。それはこの私を救う阿弥陀仏と救われる側の私の関係性をあらためて深く思い知らされたのです。ブツダ積尊が悟られた真理は經典という言葉によって伝えられましたが、親鸞聖人は

その中で、阿弥陀仏の願いと救いが完成された「仏説無量寿経」の説話こそが明らかに万民が救われていくことを述べられた真実の經典であると教えていただきました。

その内容は、法蔵菩薩(ほうぞうぼさつ)が、すべての地獄行きの衆生をどうしたら救うことができるか、どうしたら安心させることができるかと、とてつもない時間「五劫思惟(ごこうしゆい)」と考へも及ばない修行「兆載永劫(ちようさいようごう)」を要して救いを成就し、「南無阿弥陀仏」ということばの声(音)となられたという、ブツダ積尊の説法です。

説法とは、衆生つまり人間がその教えを聞くことを言いますが、正しくは「聴聞(ちようもん)」するのです。

実は聞くということに本質的に違う二つの聞き方があります。「きく」という漢字には、通常使う字が二つあります。聞と聴です。聞のほうは単に音が耳に届いている、聞こえるというきき方です。ところが、私たちはさまざまな音環境のなかにいながら、現実には「今・ここ」で自分にとって大切と思う音を瞬時に選り分けてきいている。きき分けて聞いているのです。これが、「聴」のききかたです。

英語でも「きく」ということばに「ヒア」と「リスン・トゥ」という二つがあります。「聞」は「ヒア」にあたる聞こえ方です。

し、「聴」は「リスン・トゥ」です。つまり私たちは無意識のうちにある意味では無限にある音環境の中から「今・ここ」で聴きたい音を聴き分けるという「選択的な注意のメカニズム」を働かせながら聴いているということなのです。だから音は人間にとって非常に不思議なもので、聴こうとしなければその人にとつてその音は存在しないということにつながつてゆきます。

もう一つ踏み込んで考えてみると、音には音を出す元、音源があります。つまり、「リスン・トゥ」という聴き方ができるためには自分にとつて大切な音源がなければならぬこととなります。音源となるものは、生活環境の中で言えば、人か物です。そうすると、この聴き方ができるためには、自分の生活の中に自分にとつて大切な他者、大切なものがなければならぬ、ということにつながります。ということは、私たちは自分にとつて大切と思う他者関係をより深めてゆかないと、自分の中の苦しい問題、解決できない問題に対する救いのヒントになるような声が、耳には届いていても、つまり聞こえてはいても、実は「馬耳東風(ばじとうふう)」のごとくに聞き流してしまうことをやつてしまふのです。

つまり自分にとつて大切な人がいないと、「リスン・トゥ」という「聴く力」は育つてこないのです。

さて、聾話学校の教育者安積先生の心に刻まれた忘れがたい場面を紹介します。『幼稚部棟の玄関には、すのこが敷いてあつて、靴を自分で脱いでお母さまと一緒に

に建物に入つてゆきます。私はある朝、玄関で「おはよう」と声をかけていたのですが、ちようどそこへ年少組の三歳の女の子とお母さまが入つてきました。その子はすのこのところに座つて、靴紐をほどき始めました。お母さまは傍らに座つて子供を見ました。お母さまは、その子は片方の靴を脱ぐと、突然その靴をポーンと放り投げたのです。そしてお母さまに向つて泣きながらお母さまの胸を両手でパンパンと叩き出した。お母さまは両手でわが子を抱きかかえながら、しばらく堪えていました。その後、もう一度子供をすのこに座らせて、その子の前にしゃがみこんで眼を見ながら「どうしたの？」と聞きました。するとその子が、なにか「わあわあわあ」と言いました。まだことばが出かから始めた段階だったので、お母さまは一所懸命に聴いているのですが、何を言っているのか分からない。すると子供がまた痛癢を起こして、今度は泣きながらお母さまの髪を毛を、引っ張り出したのです。お母さまはまたしばらく堪えて、抱きかかえるようにしながら、もう一回すのこに座らせ、その子の眼を見ながら、「どうしたの？ちゃんと教えて」と言いました。お母さまの眼には涙がいっぱい溜まつていました。こうしたことが、二、三回繰り返された後、やつとその子が「うん」とうなずいて、いい顔になって、自分から放り投げた靴を拾いに行きました。私は玄関の前で心を痛めながらじつと見守ることしかできませんでした。

一段落して、お母さまが子の手を引きながら、私の前に来て、涙にぬれた眼でニコッ

と笑ったのです。あの笑顔を私は忘れることができません。このお母さまのわが子を聴く姿は、まさに「徹して聴く」聴き方で聴いた。そして、それはわが子の痛みを自ら引き受けてゆくような聴き方に必然的になるのだと思いました。お母さまは、引き受けたんですね、わが子の痛みを。そして、そのように徹して聴く聴き方をしてもらって初めて、その子は、今度は、お母さまの言うことを聞く力が出たのです。そして、「うん」とうなずいて自分から靴を拾いに行った、いわば内発的行動を起こしたのです。「徹して聴く」ことによってしか育つてこないものがあるんですね。私たちはいくつになっても、自分のことを聴いてくれる人を必要とします。ましてや子供たちです。本当に徹して聴いてもらうことによって、自分の中に内発的な、自立的な力が育ってくる、それなくしてはこうした力は育たないのです。私はこういう子やお母さまの姿を見ると、やはり「待つこと」によってしか育つてゆかないものがあるのだということを、本当に教えられるますし、それを信じていることができるのです。』

さあ皆さんはお気づきでしょうか？

音源は無限の過去から私を呼びづめの阿弥陀さまの声です。お母さまは阿弥陀さま、子供は私と置き換えてみたらどうでしょう。すのこは教えに導く仏法の場合です。

なんとお手間のかかった「今のこの私」の姿でしょうか？

【寺灯雑記】

○炎天下に多くのファミリーが集う

7/29

連日35度、40度とかつてない危険な暑さが報ぜられていっているうちに、逆走台風上陸にやきもきさせられました。午後から予定通り「第27回門信徒ファミリーパーティー(あえてよかつたね)」が賑やかに開催され、およそ150名が参加しました。

第1部は聞法会館において落語とコーラス。始めてご出演いただいた真打三遊亭歌奴(四代目)さんは若手だが古典を得意とし、「試し酒」を披露。大勢の老、若、子どもたちの観客を見渡しながらいふとそばの食べ方を取り入れながら見事な芸を演じて拍手喝さいを浴びました。

続いて「声楽とフルートによる演奏」を聞かせてくれたのは、聖徳大学の音楽療法コース卒業の仲間をもとに結成した「ことりのえん」の4人のみなさん。ピアノ、フルートの美しい音色の演奏と美しい歌声が会場に響きわたりました。

第2部は新しい万国旗が中央のパイプの柱から四囲にはためく駐車場に移って、日頃みられなくなった大ファミリーの和やかな光景と歓談の場が演出されました。

テントには各種飲物、かき氷、生ビール、焼き鳥、焼そば、きゅうり、枝豆、フルーツ、焼トウモロコシ等々が婦人会・壮年会の方々による模擬店が出店し、子どもたちには射的や水ヨーヨー、輪投げ、しやぼん玉遊びといった遊戯と景品をたっぷり楽しんでもらいました。

この日会場の設営や模擬店の食品作りな

ど、お手伝いいただいた実行委員の方々には準備段階から本当にご苦労さまでした。

尚、このたびは西日本の豪雨による大災害があり、被害を蒙った多くの皆さまに心よりお見舞い申し上げます。早速、ファミリーパーティーの当日、参加者に義援金を呼びかけ、金58,126円が集まりましたので「本願寺たすけあい募金」宛(平成30年7月豪雨災害義援金)へ送金致しました。

また、当分の間、義援金を募集していますのでよろしくお願い申し上げます。

(郵便振替00110 6 740059)

中原寺ふれあい募金宛

○築地本願寺での帰敬式受式希望者へ

今秋十一月十五日(午後)と十六日(午前)の両日、築地本願寺の報恩講法要において本願寺ご門主により帰敬式が行われ生前法名が授与されます。ご希望の方は申請書に記名捺印をし、冥加金25,000円を添えて8月末までに当寺へご連絡、お申込み下さい。

☆孟蘭盆会法要修行

(並びに全戦没者追悼会併修)

*午前10時から

・重誓偈

・仏説阿弥陀経

・仏教讃歌(みほとけにいだかれて)

・法話 白川憲仁師(世田谷正法寺)

・回顧(戦時下に生まれて) 前住職

亡き人びとを想い、遺されたものへの願いを仏法の教えを通して受けとめる大切な法要です。皆様のご参詣をお待ちしています。

(正午終了予定)

☆第30回文化講演会

*期日：十月二十日(土) 一時半

講師：花園大学教授 佐々木閑先生
演題：「現代人のためのブツダの教え」

【九月の法要・法座・行事の案内】

○婦人会法座(讃寿の集い)

九月一日(土) 十一時

○壮年会法座(仏教から生まれた日常語)

九月一日(土) 三時 住職

○子育てサロン(パンダっ子)

九月十日(月) 十一時～二時

○彼岸会法要

九月二十三日(日) 一時

○和讃に学ぶ(正像末和讃)

九月二十九日(土) 三時 前住職

◆千葉組壮年会1泊研修旅行参加募集

(親鸞聖人常陸ご旧跡寺院参拝)

*十月一日(月)～二日(火)

*参加費：24,000円

*参加ご希望者は8月末までに当寺へ

【八月の掲示板のことば】

見えない根たちの 願いがこもって
あのような 美しい花となるのだ

※休講のお知らせ

八月二十五日(土)の「和讃に学ぶ」はお休みとします。